

理事長コラム〈19〉 世界を生きる

学校法人 渡辺学園理事長 菅谷 定彦

日経米州編集総局長時代⑤

境第一企画社長とロングアイランドへ

水野ミズノ副社長とはヤンキーススタジアムに

日本経済新聞の初代米州編集総局長在任中の昭和62(1987)年3月から2年間、わが国はバブル景気の最中、円相場も1ドル1145円前後の円高とあって、日本人の来客は厳冬の期間を除き週1〜2名。私は全訪問客に丁寧に対応したが、長年親しくしている人物との会合は楽しい時間だった。

昭和62年の晴れた5月にニューヨーク入りしたのは妻孝子(ここの)いとこで、有力広告会社第一企画(現ADKホールディングス)の境直哉社長、由紀子夫妻。提携先の米広告会社DDBのバンバック会長との商談が主目的だった。事前の電話で日曜日の昼から夜まで付き合っただけというのでOKした。当日昼過ぎ私の愛車AUDIでマンハッタンのホテルで境夫妻をピックアップ。ニューヨークタイムズ紙が「ワールド・ロングスト・パーキングブレイス」と悪評したロングアイランド・エクスプレスウェイは日曜午後とあってスイスイ。ロングアイランドのポート・ヨット専用の港に到着。バンバックさんの運転する大型ボートでハンバークとコーラの昼食をとりながらロングアイランドの美しい緑、立派な別荘群、マンハッタンの遠景などさわやかな3時間だった。夕暮れが迫る中、境さんから菅谷さんの車を港に置き、

バンバックさんのキャデラックで彼が会員のフロントリークラブで夕食をと言われ付き合った。会食は終始仕事の話。境さんは日本での米企業の広告出稿を増やせ、DDB会長は努力しているが簡単ではない、境さんはなぜかと問い、DDB会長が理由説明することの繰り返し。英語が得意でない境さんに代わって私が通訳を務めた。終了後境さんから「菅谷さんの英会話は完璧だ」と褒められ、出されたワインやステーキデザイナーのフルコースを間断なく通訳を務めながら完食したことを「菅谷さんはすごい」と由紀子さんに驚かれた。境さんは翌年早々にロッテの重光武雄社長と共にマンハッタン入り、3人で朝鮮焼肉屋で懇談した。

明治生命保険の役員だった一郎さんの長男、境さんは東京文化学院卒、学生時代は「遊んでばかり」と私に話したが、アジア・太平洋戦争の敗戦間もない昭和24(1949)年、友人の堀田三郎さんと広告会社国際企画を設立、昭和36(1961)年第一企画(現ADKホールディングス)に社名変更。昭和29(1954)年から始まった日本経済の高度成長期に乗り、三菱グループや西武流通グループなどの有力企業の広告を持ち前の粘り強さとセンスの良さで増やしてきた。三菱自動車「ミラーージュ」のえりまき

とかげ、パイポの「私はこれで煙草を辞めました」など話題のCMを次々と生み出した。境さんと親しくなったのは私と孝子の工業倶楽部での結婚披露宴を岳父、田実彦(当時三菱銀行副頭取の要請で取り仕切り、何度か打ち合わせたことに始まる。その後私の日本経済新聞記者時代からニューヨーク特派員帰国後の編集局産業部次長、同部長まで「菅谷さんを一企の後継社長に」と口説き続けた。赤坂、浅草、神楽坂の一流料亭で最初の5〜7分、人払いして私を説得。私は「新聞記者やマスコミのリーダーとして日本の健全な発展に貢献する」と断り続けた。話が終わるとギター演奏者と呼ばれ、飲食しながら交互に15〜20曲歌ってお開きのパーティー。ある時境さんの長男で成蹊大学を卒業後ボストンのバフソン大学院でMBA(修士)を取った芳郎君が第一企画に入社しているのではと話すと、「菅谷さんが一企に来て指導してくれる結果次第」との返事だった。

私が日経常務取締役名古屋代表に就任した平成5(1993)年3月の数カ月前まで時には共通の友人、山崎達光(エスピー食品社長らを携え会合を持ったが、名古屋への赴任直前、境さんがガン治療で極秘入院していた国立ガンセンターを訪ねた。常務の名刺第1号を手渡し、言



米広告会社社長所有の大型ボートでロングアイランド沖を周遊、左は境第一企画社長



1987年7月 ヤンキーススタジアムネット裏席で 右が水野ミズノ副社長

んでもらったが程なく亡くなった。四谷イグナチオ教会での通夜、告別式に境さんの遺言で私と家内が親族代表を務めた。

日経産業部長時代に知り合ったスポーツ用品メーカー、ミズノの水野正人副社長(翌年社長)のニューヨーク入りは昭和62年7月。ミュージカル鑑賞を希望されたが「オペラ座の怪人」「キャッツ」などを全て超満員。私の秘書が苦勞して確保したのは高級住宅街マディソン・アベニューにあるマンションの1〜3階を使って、客が案内人のガイダンスに従い、各階の舞台で俳優が演じるユニークな演劇。3階で水野さんがいないことに気付く2階に降りると壁側の椅子で眠っている水野さんを発見。旅の疲れと時差の影響と判断、翌日のヤンキーススタジアム行きを約束し、地下鉄でホテルに送り届けた。

スタジアムのあるブロンクス地区は必ずしも安全でなく、駐車場も混んでいると判断、タクシーで向かった。バックネット裏のいい席だったが、試合が凡戦、猛塁下でもあり、水野さんは「ミズノは野球用品を大量にヤンキースに納めているので「特別室」に入れるから軽食でも」と同行すると、水野さんがスニーカーを履いていたため入場を断られた。水野さんはウイスコンシン州のカーセージ大学理学部卒。得意の英語力でまくしたてたがNO。「明日もお互い朝から仕事なので帰りますよ」と地下鉄でホテルに送り届けた。

水野さんはその後東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会副理事長に就任、平成23(2011)年IOC(国際オリンピック委員会)総会で、日本代表として東京誘致のプレゼンを英語で行い、成功させた。

※次号は「世界を生きる」

「日経米州編集総局長時代⑥」です